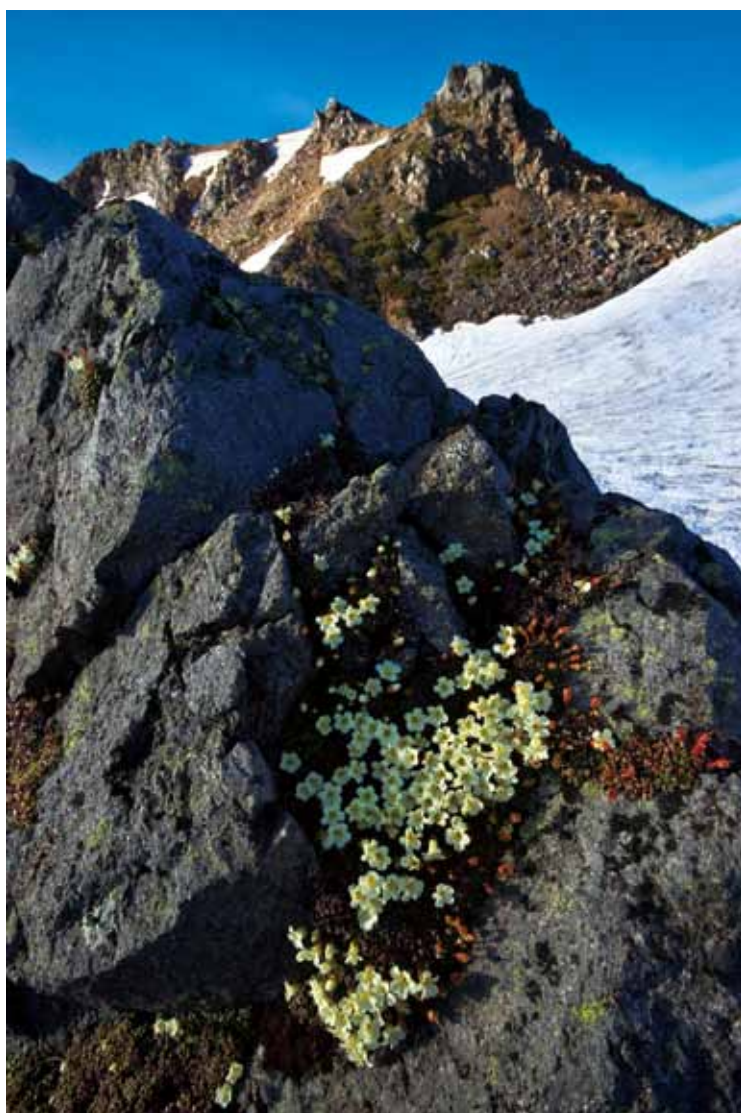


福 井 県 医 師 会

だより

第708号 令和2年(2020)6月



岩に咲く (イワウメと御前峰)

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：岩に咲く (イワウメと御前峰)

福井市 石黒 信彦

6月になっても、白山にはまだ沢山の残雪がある。雪解けが進んだ岩の窪みには、イワウメがしがみつくようにびっしりと生え、白い花を咲かせていた。御前峰を背景に一枚を切り撮った。

## 醫 縫 録

# 在宅医療におもうこと

総務・地域包括ケア担当理事 伊部 晃 裕



事務局の大谷君より、総務担当理事就任にあたり、挨拶文を医師会だよりに寄稿してほしいとの依頼がありました。広報委員会にも参加している私としては、諸先生方の名文に触れている身、即答を避けようと試みましたが、彼の拒否を許さない眼に見つめられ、わかったよ、と一言。才筆に、ほとんど触れてない私にとって、それから苦闘の日々となりました。

私が福井県医師会の理事に就任してから、医療秘書学院担当、地域医療担当、介護保険担当、地域包括ケア担当と、それぞれの仕事を与えられましたが、池端会長をはじめとする、諸先生方、事務局の中山君を含めたスタッフのご支援を受けて、なんとかここまでやれたことに深く感謝しております。

現在与えられた地域包括ケア担当の役割は、介護保険を含めて、在宅医療、在宅療養の質・量をいかに高めて、地域の人々に享受してもらえるか、そのために、地域の先生方に積極的に在宅医療に参加していただけるよう、環境の整備を行うことと考えております。先生方もご承知のように、国の方針にそって、地域医療構想調整会議が行われ、福井県の場合2025年までに、10,068床あった許可病床数（2014年時点）を7,591床まで削減しようと議論を進めております。つまり、広い意味の在宅医療、在宅療養をこれまで以上に必要とする人たちが増えることを意味しております。2040年までは超高齢化社会が進むと言われている中、ますます、在宅医療に関与していただける先生方の、絶対数を増やす必要性があります。しかし、残念ながら在宅医療を行って頂いている先生方が多いとは言い難いのが現状です。

そこで、先程述べました環境の整備のため、現在県医師会として県のご支援のもと、福井県在宅医療サポートセンターで色々な事業を行っております。設立当時、まず何が在宅医療を行うに当たり障害となっているかの把握が必要と考え、先生方へのアンケート調査から始めました。その結果、在宅医療で使用する備品の購入には無駄が多い、自分自身の専門以外の勉強をしたい、訪問診療に同行したい、県民に対する啓蒙が必要ではないか、在宅医療をやる時間がない、体力的に無理

だ、などの貴重なご意見を頂きました。これらの意見をふまえて在宅医療を推進するために、総括を池端会長、研修企画部会を坂井健志先生（現在は山本雅之先生に交代しております）、啓発・推進部会を山本雅之先生、地域支援部会を私が、というようにそれぞれの先生方が部会長となって議論をすすめ、様々な事業を企画しております。研修企画部会では、実践研修会基礎編、応用編を年2回ずつ、同行訪問研修を数回、緩和ケア病棟実地研修を1回行っております。地域支援部会では、在宅医療材料の共同購入をサポートセンターで管理し、一個単位での購入を可能としました。また、研修用のモデルを使用した現場で役立つ研修会を年2回開催しております。それと共に、地域の先生方と基幹病院との連携がスムーズにいくように、基幹病院の地域連携課のスタッフとの意見交換会を年2回、また、地域の病院や介護事業所のスタッフとの意見交換会を1回開催しております。啓発・推進部会は県民への啓蒙を目的として、山本先生をはじめとして諸先生方が、サポートセンター職員である北川さんの監督のもと寸劇を通して在宅医療の重要性を訴える県民公開講座を開催しております。基調講演、シンポジウムも行っており、昨年には県医師会理事として藤井康広先生にも協力いただいております。

もう一つの仕事として認知症の対策があります。福井県認知症サポート医連絡会の永田美和子先生、松原六郎先生をはじめとする諸先生方の協力のもと、かかりつけ医認知症対応力向上研修を年2回、かかりつけ医認知症実践研修を2回、認知症サポート医フォローアップ研修を2回、病院従事者認知症対応力向上研修を3回行い、認知症ケア人材の育成を行い、地域の認知症施策の中心となる先生方を増やしていければと考えております。

上記の事業に、少しでも多くの先生方に参加していただければ幸いです。今後も、微力ではありますが、先生方のご協力のもと、医師会活動に専心したいと考えております。